

『命の言葉をめぐって』ヨハネ6:60-71

6:60 弟子たちのうちの多くの者は、これを聞いて言った、「これは、ひどい言葉だ。だれがそんなことを聞いておられようか」。

6:61 しかしイエスは、弟子たちがそのことでつぶやいているのを見破って、彼らに言われた、「このことがあなたがたのつまずきになるのか」。

6:62 それでは、もし人の子が前にいた所に上るのを見たら、どうなるのか。

6:63 人を生かすものは霊であって、肉はなんの役にも立たない。わたしがあなたがたに話した言葉は霊であり、また命である。

6:64 しかし、あなたがたの中には信じない者がいる」。イエスは、初めから、だれが信じないか、また、だれが彼を裏切るかを知っておられたのである。

6:65 そしてイエスは言われた、「それだから、父が与えて下さった者でなければ、わたしに来ることはできないと、言ったのである」。

6:66 それ以来、多くの弟子たちは去って行って、もはやイエスと行動を共にしなかった。

6:67 そこでイエスは十二弟子に言われた、「あなたがたも去ろうとするのか」。

6:68 シモン・ペテロが答えた、「主よ、わたしたちは、だれのところに行きましょう。永遠の命の言をもっているのはあなたです」。

6:69 わたしたちは、あなたが神の聖者であることを信じ、また知っています」。

6:70 イエスは彼らに答えられた、「あなたがた十二人を選んだのは、わたしではなかったか。それなのに、あなたがたのうちのひとは悪魔である」。

6:71 これは、イスカリオテのシモンの子ユダをさして言われたのである。このユダは、十二弟子のひとりでありながら、イエスを裏切ろうとしていた。

## ●序論

今、わたしたちがお読みしているこのヨハネの6章のはじまりから、その終わり。このたった一章の中、日数にして立った二日の出来事の中で、イエスさまのまわりにいる人たちに大きく変化があったことを見てきました。

男だけでも五千人以上の人たちがイエスさまを求めてきていた、大群衆に囲まれ迫れる様子。その群衆は、次の日にはイエスを求めて湖を渡って来るほどでした。しかし、その直後、彼らの本とんどがイエスさまから離れ去って行く様子が描かれています。

:60 弟子たちのうちの多くの者は、これを聞いて言った、「これは、ひどい言葉だ。だれがそんなことを聞いておられようか」。

ここまでの反応を見つつイエスさまは、はっきりとこう言われました。

:63-64 人を生かすものは霊であって、肉はなんの役にも立たない。わたしがあなたがたに話した言葉は霊であり、また命である。しかし、あなたがたの中には信じない者がいる」。

わたしたちは今、イエスさまを目の前にして「神の知恵、神の力」に触れています。

この方を前にして「信じる心」が取り扱われていることを知っていただきたいのです。

## ●本論

### I. 信じようとしぬ者たち

考えてみれば、これまでイエスさまと対話した人たちのほとんどが、最初からイエスさ

まの言葉の真意を理解できていたわけではありませんでした。

あのユダヤ人の教師ニコデモ、そしてスカルノ井戸のサマリヤの女性もそうでした。

彼らは、最初戸惑いました。しかし、彼らはイエスさまとの対話を重ねることを通して、イエスさまを信じるように導かれていったのです。

しかし、この6章では、5000人が養われる奇跡を見、弟子と呼ばれた人たちが、イエスさまの言葉を、靈的に受け取ることができずに、離れて行ってしまっています。

6:60 弟子たちのうちの多くの者は、これを聞いて言った、「これは、ひどい言葉だ。だれがそんなことを聞いておられようか」。

6:61 しかしイエスは、弟子たちがそのことでつぶやいているのを見破って、彼らに言われた、「このことがあなたがたのつまずきになるのか。

このつまずきの要因について、彼らがイエスさまを追いかけて来たときにすでに言われていました。(だいぶ前に戻ります)。

6:26 イエスは答えて言われた、「よくよくあなたがたに言っておく。あなたがたがわたしを尋ねてきているのは、しるしを見たためではなく、パンを食べて満腹したからである。

そういう言葉から始まって、イエスさまは、御自身を命のパンであると表されました。

もちろん、それは靈的な表現としてのものでしたが、正直、お腹を満たすパンさえ与えてくれればと求める人々の心にはそれは届きませんでした。

6:41 ユダヤ人らは、イエスが「わたしは天から下ってきたパンである」と言われたので、イエスについてつぶやき始めた。

あのニコデモもまたスカルノ井戸のそばのサマリヤの女も、信仰が彼らのイエスさまを見る目となり始めていたことをわたしたちは知りました。

けれどもここでのイエスさまの弟子と呼ばれていたはずの人たちが、その目が、心が閉ざされていたことに、靈的なかたくなさのありさまを見るのです。

6:64 しかし、あなたがたの中には信じない者がいる」。イエスは、初めから、だれが信じないか、また、だれが彼を裏切るかを知っておられたのである。

6:65 そしてイエスは言われた、「それだから、父が与えて下さった者でなければ、わたしに来ることはできないと、言ったのである」。

6:66 それ以来、多くの弟子たちは去って行って、もはやイエスと行動を共にしなかった。

先週、わたしは自分自身によく問うことがある…とお話しました。

「はたして、わたしは教えられやすい人であろうか」と。

それはまさしく、イエスさまが靈的に語られる言葉を聴き取り、受け入れ、信じる者であろうか、と問われてる問いかけであると思われています。

だから祈ります。どうかわたしの心を、靈的に教えられやすい心にしてくださいと。

## II. 信じる者たち

まずつまずく人たちに語られた言葉をもう一お読みします。

:61 彼らに言われた、「このことがあなたがたのつまずきになるのか。

:62 それでは、もし人の子が前にいた所に上るのを見たら、どうなるのか。

:63 人を生かすものは霊であって、肉はなんの役にも立たない。わたしがあなたがたに話した言葉は霊であり、また命である。

:64 しかし、あなたがたの中には信じない者がいる」。

もしわたしがそこにいたならば、なんの知識も前提もないままでどれだけそのお言葉をうけ入れることができただろうか…と思うことがあります。

「わたしがあなたがたに話した言葉は霊であり、また命である。」と言われたイエスさまの言葉には、それは聖霊によって、信仰によって受け止めるべきことであることがわかります。

1コリント2:12 …わたしたちが受けたのは、この世の霊ではなく、神からの霊である。それによって、神から賜わった恵みを悟るためである。

さて、イエスさまは12弟子たちに問いました。

6:67 …「あなたがたも去ろうとするのか」。

当然と言えば当然の問いかけです。それに対して

6:68 シモン・ペテロが答えた、「主よ、わたしたちは、だれのところに行きましょう。永遠の命の言をもっているのはあなたです。

6:69 わたしたちは、あなたが神の聖者であることを信じ、また知っています」。

12弟子を代表するペテロは、ここでイエスさまが語る言葉は「永遠の命の言葉である」といって受け留めていました。それは先のイエスさまの言葉に対する答えのようです。

:63 人を生かすものは霊であって、肉はなんの役にも立たない。わたしがあなたがたに話した言葉は霊であり、また命である。しかし、あなたがたの中には信じない者がいる」。

ペテロたちにどれだけ十分な理解や知識があったかわかりません。

しかし少なくともそれを受け止めていました。それを頼りにしていたのです。

永遠の命は、このイエスさまと共にあること。イエスさまとつながり続けること。イエスさまから受け取るべきこと、そしてこのイエスさまとの関係の中に見いだすべきものだということです。

### Ⅲ. 裏切る者たち

6:64 しかし、あなたがたの中には信じない者がいる」。イエスは、初めから、だれが信じないか、また、だれが彼を裏切るかを知っておられたのである。

さらには、

6:70 イエスは彼らに答えられた、「あなたがた十二人を選んだのは、わたしではなかったか。それなのに、あなたがたのうちのひとは悪魔である」。

6:71 これは、イスカリオテのシモンの子ユダをさして言われたのである。このユダは、十二弟子のひとりでありながら、イエスを裏切ろうとしていた。

「裏切り」という言葉は、聞きたくない言葉の代表でしょう。

ましてやイエスさまを裏切ることなど…と。

しかし、12弟子の中にさえ、悪魔は働き、また裏切りがあったという事実は、わたしたちの心に大切な警告を与えます。

イスカリオテのユダばかりではなく、実際にはイエスさまが捕らえられ時、あの12弟子皆が、イエスさまを見捨てて逃げてしまったのです。

ここで知らなければならない一番大切なことは、そのすべての弟子たちの弱さをイエスさまはご存知であったということです。

もちろん弟子たちは、自分たちの弱さや裏切りの可能性のことなど知りませんでした。でもイエスさまは知っていてくださっていたというのです。

それを一番よく経験したのが、その弟子たちでした。

復活のイエスさまの方から彼らに近づき、絶望の淵に苦しんでいた彼らを癒し回復してくださったのです。

6:67 そこでイエスは十二弟子に言われた、「あなたがたも去ろうとするのか」。彼らのすべてをご存知でありながらも、イエスさまはそう問うことを通して、弟子たちがその時点での精一杯の信仰の告白を引き出しています。

：68-69 …「主よ、わたしたちは、だれのところに行きましょう。永遠の命の言をもっているのはあなたです。わたしたちは、あなたが神の聖者であることを信じ、また知っています」。

わたしはここにイエスさまの慈しみのまなざしを感じています。

弟子たちを知っているからこそ、不十分さをもすべて受け取って、その贖いの十字架を背負って歩まれるイエスさまのまなざしです。

ヨハネ3:15 それは彼を信じる者が、すべて永遠の命を得るためである」。

## ●最後に

この6章全体には、男だけでも5千人の人たちが2匹の魚と5つのパンで養われるという奇跡があり、民衆は色めき立ちイエスさまを王様にまで祭り上げようとしたことを見、またその翌日には、イエスさまが語る命の言葉をめぐって、人々は失望してイエスさまを離れ去るという記事を見てきました。

もし今、わたしたちが生きているこの時代の価値観で言うならば、多数の支持を得られないイエスさまは、偽物であり、まがい物と断じられてしまうかもしれません。わたしたちは、これからの時代にも問われることと思います。イエスさまの言葉を信仰によって聞き取り、受けとめる者でありますか？と。そして聖霊による助けを必要としていることを忘れないでください。

そしてあのペテロの言葉を、自分の者としていく者でありたいのです。

6:68-69 「主よ、わたしたちは、だれのところに行きましょう。永遠の命の言をもっているのはあなたです。わたしたちは、あなたが神の聖者であることを信じ、また知っています」。